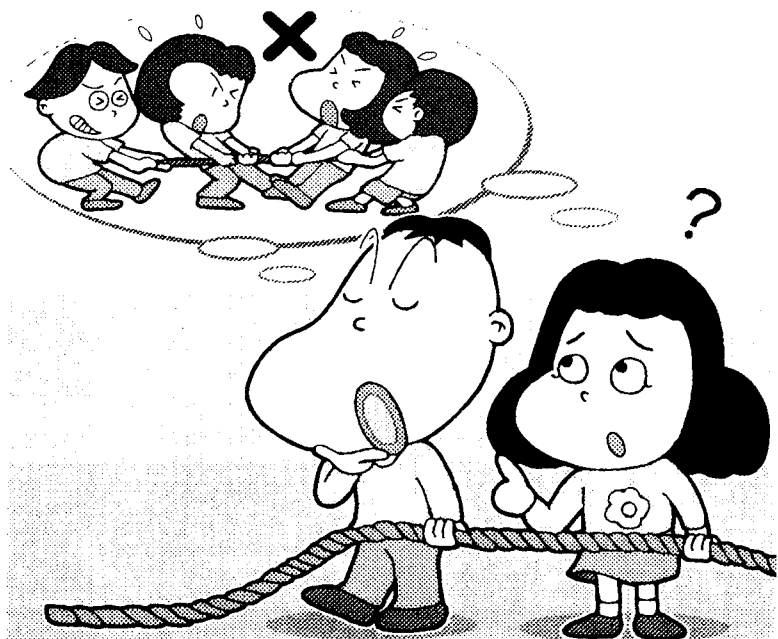


あそびのレシピ



ルールづくりから楽しもう

綱押し

「遊びがマンネリ化して「遊び」についての固定観念がありました。何か面白い遊びはありますか」という質問を受けるとあります。経験が増えていけばそれだけ考えをみんなで「掃して、新すよ。」

「遊び」についても強くなり、決まった遊び方しかできなくなります。そこで今回は、これまでのくうちに頭が柔らかくなりま

しいルールを見いだす遊びを紹介します。最初から誰かにルールを尋ねるのではなく、自分たちでルールを作ってみよう。戸惑いながらも考えていくうちに頭が柔らかくなりま

- 【人数】 10-20人
【場所】 バレーコート
【道具】 10m前後の丈夫なロープ
【遊び方】 ①グループを2つに分け、コートの中央に長めの線を1本引く。
②丈夫なロープを用意。リーダーは「今から綱引きならぬ『綱押し』を始めます」と言う。メンバーは、綱引きはしたことがあっても「綱押し」は初めてなので、ざわめきが起こる。
③続けてリーダーが簡単な遊びの説明をする。「試合は3回。試合時間は各10秒です。10秒後に笛を鳴らしますが、その時点で中央線によりたくさんロープが入っていたチームが負けです。中央線を越えて相手のコートに入ることはできません」。説明は以上。これ以上は言わない。
④1回戦の作戦タイム。メンバーは「綱引き」ではない「綱押し」の意味が分からないまま、まずはやってみる。
⑤10秒後、ロープの量が中央線より少ない方が勝ち。最初は綱引きと勘違いする人もいるが、みんなでおぼろげにだんだん遊び方が理解できる。

九州あそびの研究所・中島宏所長
問い合わせは092(882)0363